

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】令和6年5月30日(2024.5.30)

【公開番号】特開2023-64807(P2023-64807A)

【公開日】令和5年5月12日(2023.5.12)

【年通号数】公開公報(特許)2023-087

【出願番号】特願2021-175159(P2021-175159)

【国際特許分類】

F 16 D 43/02(2006.01)

10

【F I】

F 16 D 43/02

【手続補正書】

【提出日】令和6年5月22日(2024.5.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【0045】

それぞれの押圧面41は、係合子5のその他の部分よりも被押圧面23に対する摩擦係数が大きい表面性状を有することが好ましい。又、それぞれの押圧面41は、係合子5のその他の部分と一緒に構成することもできるし、係合子5のその他の部分に、貼着や接着等により固定された摩擦材の表面に形成することもできる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【0065】

これに対し、入力部材4の回転に伴って1対の係合子5に作用する1対の押圧面41を被押圧面23に近づける方向の力Fが、1対の力付与部材6が1対の係合子5に付与する力f以下である場合、1対の力付与部材6の弾力によって形成される被押圧面23と1対の押圧面41との間の隙間79に基づいて、入力部材4及び/又は出力部材3を空転させる。このように、本例の逆入力遮断クラッチ1は、入力部材4の回転及び1対の力付与部材6の弾力によって制御される1対の係合子5の遠近方向の移動に基づき、入力部材4から出力部材3に回転トルクが伝達可能になるロック状態と、入力部材4と出力部材3との間での回転トルクの伝達を遮断するフリー状態とを切り替えることができる。したがって、逆入力遮断クラッチ1の装置全体の軸方向寸法を短くできる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0084

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0084】

1対のピン49は、円柱形状を有し、カム部30bの短軸方向両側に支持固定されている。具体的には、1対のピン49の基端部(軸方向他側の端部)を、大径軸部29の軸方向片側面に開口する圧入孔に内嵌固定することで、1対のピン49を軸本体48に支持固定している。これにより、1対のピン49の半部を、カム部30bのうち、短軸方向両側

50

に配置された 1 対の第 1 平坦面部 33 の長軸方向中央部から径方向外側に向けて突出させることで、1 対の係合凸部 47a を設けている。

【手続補正 4】

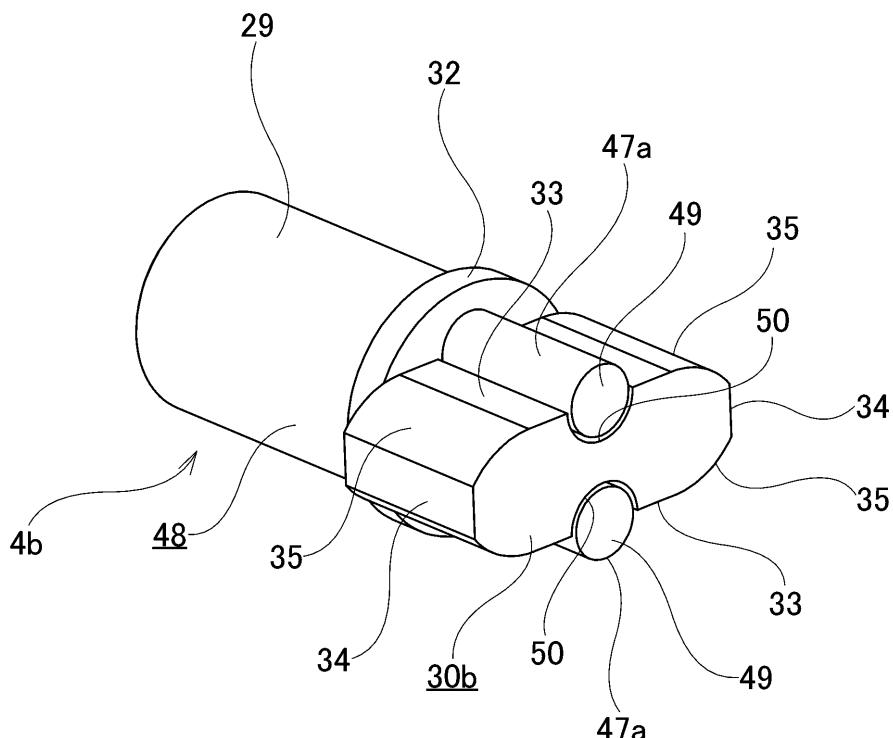
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 20】



10

20

30

40

50